

ソフト面からの 獣医学教育改革の課題



コア・カリキュラムと これを軸に展開する教育事業

- ① コアカリキュラム
- ② 共通テキスト
- ③ 共用試験 (参加型臨床実習を実施するため)

1. コアカリキュラム

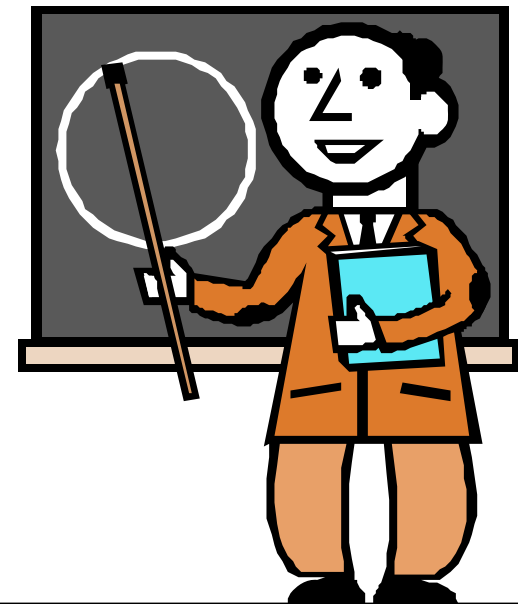
これまでの教育：科目と単位数が決められているだけ
(後は暗闇の世界)

コアカリができた背景 (教育手法への批判)

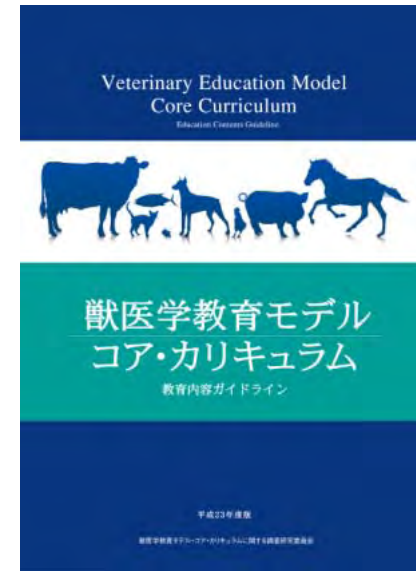
- 私が教え
- 私が試験問題を作り
- 私が採点し
- 私が合否を決めるのだ！



客観性と透明性が求められている
古い体質からの脱却



「獣医学教育関係者が 自主的・主体的に定める教育項目」 の設定が必要！



コアカリ委員会メンバー： 石黒直隆、尾崎博、片本宏、佐藤晃一、佐藤れえ子
多川政弘、田村豊、西原真杉、吉川康弘（9名）

獣医学教育モデル・ コア・カリキュラム

平成23年度版

（到達目標数：1750）

平成23年3月 公表

平成23年6月 全国協議会で承認 **24年度版を編集中**

獣医学教育モデル・コア・カリキュラム 平成23年版の骨子(5項目)

「今後の獣医学教育の改善・充実方策について」意見のとりまとめ より

- ① 獣医学生が卒業時まで身につけるべき必須の能力(知識・技能・態度)に関する具体的な到達目標を明示。
- ② 獣医学専門教育課程6年間で学修すべき2／3程度の内容とし、残りは各大学がそれぞれの理念に基づいて独自のカリキュラムを組む。
(大学の自由度を尊重)

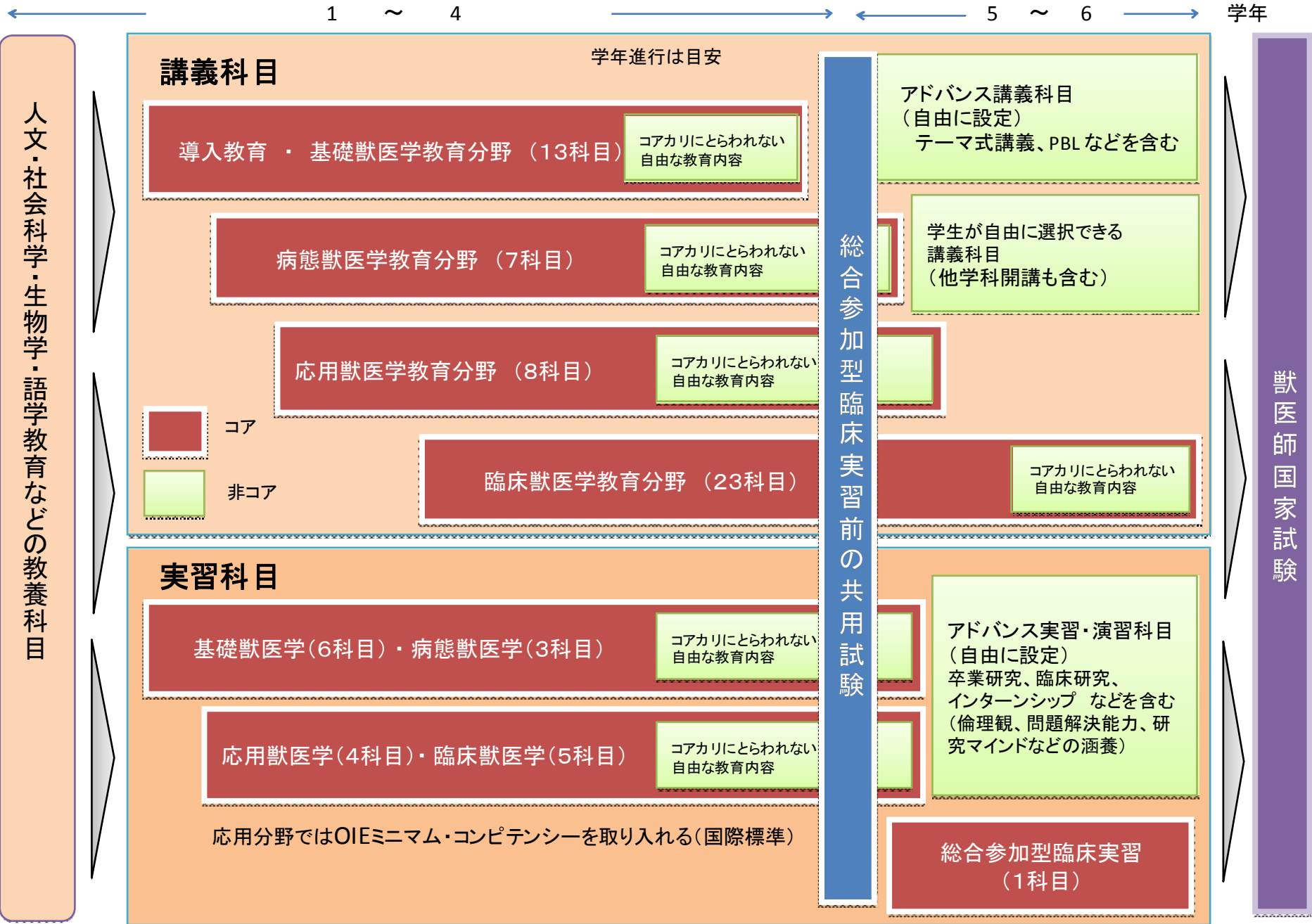
- ③ 近年の獣医学の進歩や社会的ニーズを考慮して講義科目として51科目、実習科目として19科目を選択。
(医歯薬の科目横断的コアカリではない)
- ④ ただし、科目名は例示であり、また単位数も大学が独自に割り振る。(大学の自由度を尊重)
- ⑤ 共用試験の出題基準、大学の横断的・分野別評価の基準として使用できる。

獣医学コアカリの特徴: 科目縦断的に作ったこと、さらに獣医学は比較生物学であることから、科目間の重複を原則認めている。
およそ500の重複項目がある

→ 実質的な到達目標の数は $1750 - 500/2 = 1500$

(重複は重要度の証でもあり、学生に重要項目として意識させるという意味もある)

コアカリ年次進行のイメージ (2/3の意味)



コアカリの今後

- **24年度版**（作業中）
小改訂・共用試験出題項目の選定・
臨床科目（臓器別科目）の総論部分の調整
- **その後の改訂**
大幅な見直しは5年後
- **国家試験基準との整合性**
来年度から検討を開始する。
まずは用語の統一から。



2. 共通テキスト(コアカリ準拠)

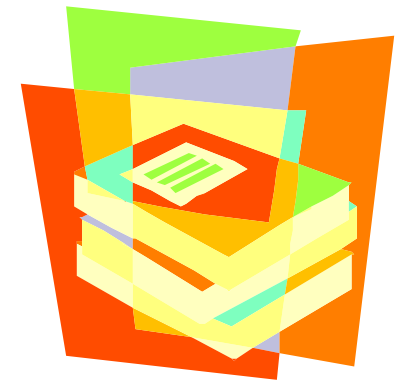
- コアカリの模範解答を学生に示さなければ無責任 !!
- 教員も51科目の全体像がとらえられる
重複項目が多いので教員の情報共有にも役立つ
CBT、国家試験問題の作成にも役立つ

2011年7月から作業を開始

獣医学会各分科会に科目を割り振る
or コアカリ作成委員メンバーに直接

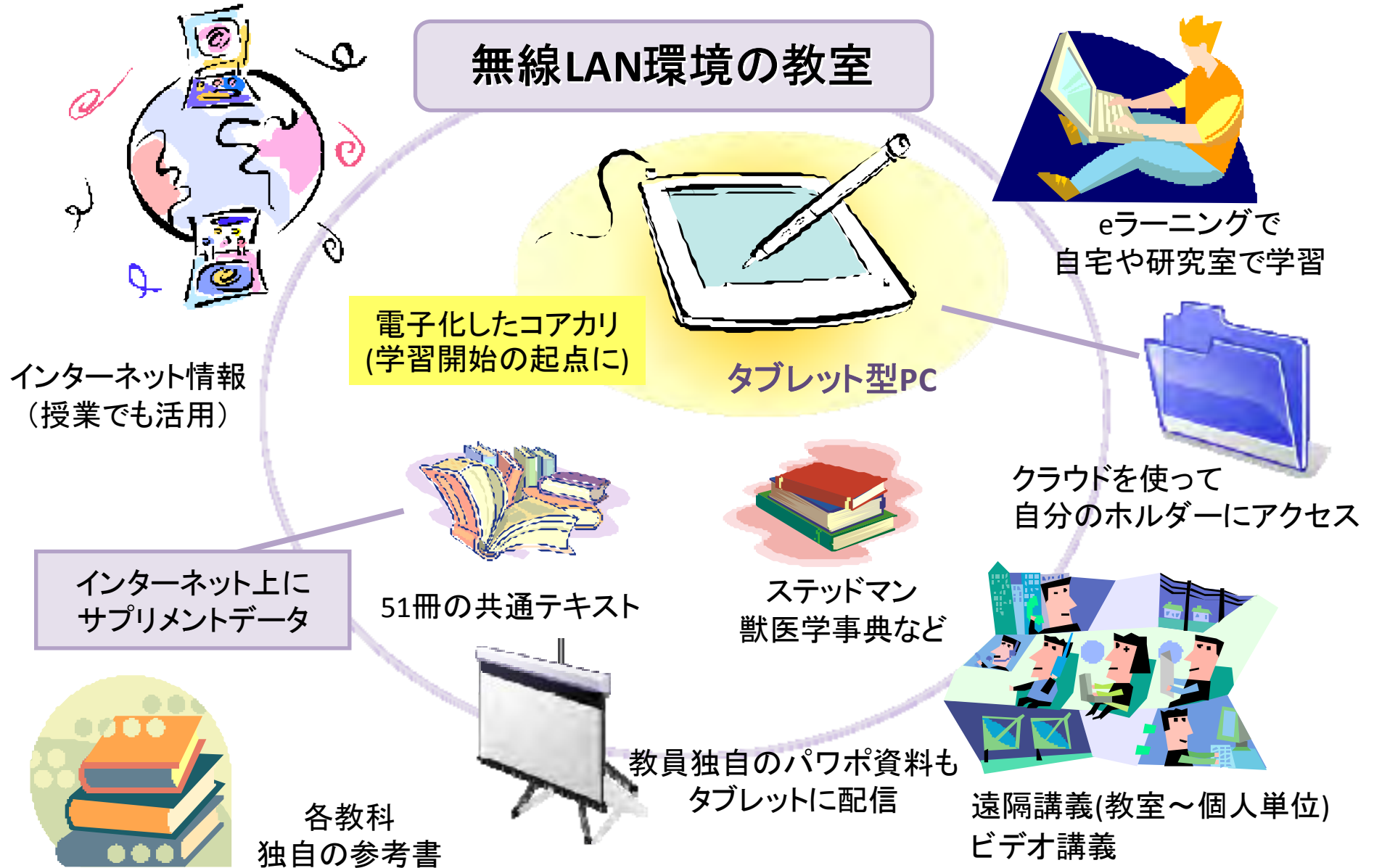
将来的には電子図書として出版し、
Webと連動させる

- コアカリを意識し、シンプルでコンパクトな内容に
- アドバンス教育のために参考書は教員が独自に準備



ITを利用した1~2年後の教育環境

無線LAN環境の教室



コアカリ支援システムを用いた 授業手法の一例

予習

講義前に共通テキストを
一読しておくようにと指示

講義

パワポなど独自の教材・手法で授業を進行

復習

eラーニングでポイントを確認
さらに指定の参考書でアドバンスを学習

試験

共通テキストの内容を中心に、
アドバンス項目についても到達度をチェック

3. 共用試験

見学型から参加型の臨床実習

を実施するための 環境づくり

動物に侵襲危害を与える可能性のある
獣医療行為は違法行為である。

違法性阻却事由を何とするか？

違法

参加型実習における
学生の獣医療行為

「獣医師資格をもつ教員が監督する」



これは阻却事由となるか？

一般人であっても業としての獣医療行為をしてもよい」ことになってしまう！

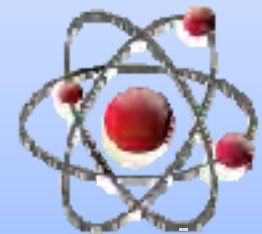
これでは、「獣医師がそばにいれば

- **医学、歯学、薬学**では、臨床実習開始前にコア・カリキュラムの到達目標に準拠した全国共通の標準試験システム(**共用試験**)を構築している。
- **看護師、理学療法士**の分野でも検討されている。

① 基礎知識については **CBT** (computer based testing)

② 技能態度については客観的臨床技能試験 **OSCE**
(objective structured clinical examination)

(4年次に行う仮免試験のようなもの)



**法人組織を結成して大学が自主的に実施している(参加は任意)。
試験成績も大学が独自に基準を設定し利用している。**

医学・歯学: 社団法人 医療系大学間共用試験実施評価機構

薬学: 特定非営利活動法人 薬学共用試験センター—薬学共用試験センター—

1000名足らずの獣医学分野で共用試験が出来るのか？
獣医学共用試験調査委員会（全国協議会）

- 獣医学で共用試験はそもそも必要か？
- 実施するとすればどのような効果を生むか？
- 獣医学ではどのような手法が考えられるのか？
どの様な手法なら無理なく出来るのか？


平成21年9月の全国獣医学協議会で設置

- 酪農学園大学： 山下和人 教授
- 岐阜大学： 北川均 教授
- 北里大学： 高井伸二 教授(委員長)
- 岐阜大学： 杉山誠 教授
- 日獣生命大学： 新井敏郎 教授
- 麻布大学： 浅井史敏 教授
- 日本大学： 鎌田寛 教授
- 東京大学： 大野耕一 准教授



共用試験によってもたらされるもの

- ① 臨床実習の目的と行為の正当性の確保
- ② 事前学習と学生の資質の検証
【社会・飼育者に対して、説明責任を果たす】
【指導獣医師(学外委託実習)に対しての、
説明責任を果たす】

 臨床実習の範囲内で一定の診療行為が可能となる

- ③ 教員の教育改善への意識が高まる(FD)
- ④ 学生の勉学への意識も高まる
- ⑤ 社会に獣医師(資格)の重要性をアピールする
絶好の機会となる

参加型臨床実習生の質の確保のための獣医学 共用試験の開発的研究

研究代表者 吉川 泰弘
研究期間 2012年度～2014年度(3年間)
研究分野 応用獣医学
審査区分 一般研究種目 基盤研究(A)
申請総額 4,961万円

獣医学教育における共用試験への準備 (平成28年度 実施に向けて)

【 獣医学共用試験調査委員会 → 獣医学共用試験委員会 】

科研費 基盤研究(A)を申請中！

獣医学教育改革の方向性とコアカリの位置づけ

